



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えます。 ㊟秘書課 ☎ 36-7117

今月のテーマ 観光資源としての「かわ」の生かし方を考える —大井川宝来地区かわまちづくり—

先月、国土交通省主催の「かわまちづくり全国会議」が開催され、先進的な「かわまちづくり」の事例として、当市の取り組み（「大井川宝来地区かわまちづくり」計画）を発表する機会を得ました。発表した計画は、蓬萊橋を中心に「観光」「賑わい」「憩い」の場を創出する水辺空間を整備し、島田市全体の活性化につなげることを目的としています。そこで今回は「今後、大井川を観光資源としてどう生かしていくか」という視点でお話させていただきます。



かわまちづくり全国会議

蓬萊橋は、年間15万人以上の観光客が訪れる当市を代表する観光名所ですが、その周辺は国管理の河川区域であることから、これまで施設の設置が難しい状況にありました。今回、国土交通省の「かわまちづくり支援制度」を活用することで、この区域内に許可を得ることができ、施設整備が可能となった次第です。

今月20日(火)には、待望のお休み処兼物産販売所「蓬萊橋 897.4 茶屋」がオープンします。897.4とは、橋の長さ「897.4 m」と「厄なし」を掛けた名称で、この計画策定に携わった「島田大井川ミズベリング協議会」(市民と民間業者で構成する協議会)の皆さんの提案によるものです。

「大井川宝来地区かわまちづくり」計画は、今年度から5カ年の計画です。来年度は、堤防法面に河川敷へ入る

進入路を設け、スロープと階段を整備します。進入路の先(番小屋の場所より一段低い河川敷)には駐車場を整備し、その西側にはスペースを確保して、オープンカフェや軽トラ市など工夫を凝らしたイベントを開催できるよう計画しています。左岸側の整備完了後は右岸側の整備へと移り、その後左岸側のエリアを拡大し、島田市博物館前の河川敷へと整備箇所を拡げていく予定です。

大井川の水辺空間は、さまざまなスポーツを楽しむ場所として、また市民の憩いの場所としても昔から活用されていますが、使い方によりさらなる価値を生み出す可能性を秘めたエリアだと考えます。蓬萊橋、川越遺跡、SL、ふじのくに茶の都ミュージアム、牧之原大茶園などの大井川流域の地域資源を有機的に結びつけることにより地域特性を生か



「蓬萊橋 897.4 茶屋」イメージ図

し、かつ多様化する旅行者のニーズに即した観光を提供し、さらに市街地の商店街と緊密な連携を図ることで、地域経済の活性化に大きく貢献できるものと考えています。今回の取り組みがひとつの起爆剤となり、島田の新しいお土産が創り出されたり、自主的にその販売に関わる人たちが出てきたりといった自立的経営を誘導することにより、「観光で稼ぐ」というビジネス意識が地域に浸透していくことを期待しています。ぜひ、新しい蓬萊橋に足を運んでみてください。

みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などを紹介します。

大井川鐵道の社員の皆さんと、私たち沿線地域住民などで結成した「大井川流域を花で満たす会」では、大井川流域に四季折々の花木を植え、訪れた観光客の皆さんに少しでも楽しんでもらえるよう活動しています。会では、今までに大井川鐵道福用駅や塩郷駅沿いにツツジを、笹間渡駅周辺にハナモモの植栽を進めてきました。

2月10日には、金谷地区の愛好家から譲り受けたアジサイ約60種類70株を、メンバー約35人で川根温泉笹間

渡駅周辺に移植しました。いずれ多くの花が咲き、沿線がきれいな「アジサイライン」になってくれることを祈っています。訪れた皆さんに華やかな風景を見てもらい、リピーターになっていただけたらうれしいです。(大井川流域を花で満たす会／佐藤洋行さん)

